



## 紙・はんこ文化からの脱却に向けてやるべきこと

新型コロナウイルスの感染拡大により、テレワークや働き方改革を推進する企業も増えています。契約書などを電子化するメリットはテレワークの促進だけでなく、膨大な文書の保管にかかる様々なコストとリスクの削減にもつながります。まず何から始めたら良いのでしょうか？それは、**社内にある文書を整理し、機密文書や個人情報が入っている重要書類を適切に処分**することです。

経営学者のドラッカーも、

**「集中における第一の原則は、生産的でなくなった過去のものを捨てることである。」**  
**「まさに廃棄は、資源を解放し、古いものに代わるべき新しいものの探求を刺激するがゆえに、イノベーションの鍵である。」**と語っています。



弊社は業界に先駆けて2003年から機密文書処理サービスを始めました。今でこそ宅配会社や物流会社、オフィス機器メーカーが機密文書処理を新規事業として手がけることが増えていますが、紙や文書廃棄の専門知識を持ち、収集運搬から処分まで自社で完結するシステムとノウハウを持っている弊社とは一線を画しています。

2003年と言えば、個人情報保護法が施行され、個人情報というものが世の中で少しずつ認知され始めました。その後、インターネットとグローバル化の進展により企業も個人情報が入った文書（情報資産）の管理が厳しく求められるようになってきました。文書管理の実情を言えば、大企業であっても、文書に蜘蛛の巣やカビが生えた状態で長期間保管していたり、誰にでもアクセスできる場所に重要な書類が無造作に置かれているといったイタイ事例が多々見受けられます。担当者が頻繁に異動することで文書管理がずさんになったり、そもそも管理する担当者を決めていない会社もあります。

2014年7月に通信教育最大手のベネッセで通信講座「進研ゼミ」を利用した子供や保護者の情報が約2,300万件流出した事件を覚えていますか？業務委託先の従業員が約3,500万件の顧客情報を持ち出し、名簿業者に売却してしまった事件です。ベネッセは対象者におおむねとして500円分の金券を送りました。顧客らが複数の集団訴訟を起こし、1万人以上が原告となっています。東京高裁は2020年3月25日、計622人に対し、1人当たり3,300円を支払うようベネッセ側に命じました。その総額は約200万円になります。ベネッセが負担する金額としては大したものではありませんが、2014年に起こした事故が未だに解決しておらず、社会への信用を失墜してしまいました。

インターネット社会になり、情報が企業にとって重要な資源となりました。その**情報が紙媒体に記録されたものが「文書」**です。電子媒体に記録されたものがデータです。**文書というものは企業にとっての「共通言語」、別の表現をすれば、企業の文化や思想、戦略を事業活動へ具体化していった結晶物**とも言えます。これら文書が社内に溜まり続けるとどうなるでしょうか？

文書が適切に保管・処分出来ていない会社は、「情報肥満体質」な会社と言えます。使用していない情報が雪だるま式に増え続けることで、ビジネスを構想する力、もっと言えば思考する力が知らず知らずの内に衰えているのです。

**経営者の仕事は選択と決断**とも言われますが、そもそも必要な情報の量と質が足りていないことが多いのです。過去の情報を探するのに時間をかけたりすることもあるかもしれませんが、現代社会では3ヶ月間使用していない情報であれば、その価値はほとんどないと言っていいでしょう。**「捨てる」をマネジメントすることから、新しい知（血）が企業に入り込む。まさに、「紙（神）は細部に宿る」ということです。**

**テレワークを推進していくには紙・はんこ文化からの脱却が必要**です。そのためには社内意識改革、業務プロセスの再構築、システム整備が必要になります。**テレワーク、業務のデジタル化、働き方改革、SDGsを活用した組織作りを目指す企業様は、弊社をディスカッションパートナーとしてぜひご活用下さい。**

～明日を考えるための言葉～

「何を持つのかは、まさにどう生きると同じこと。」  
「“片付け”とは過去に片をつけること。」 -近藤 麻理恵

当社への持ち込み1件あたり10円を寄付  
ユニセフへの  
累計寄付金額 **391,350円** ※

※5/31現在

### みなさまの声をお聞かせ下さい

資源物リサイクルを通して、環境保全に貢献することを目指す当社では、サービス向上のためにも皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしています。

発行元： 奥富興産株式会社  
編集責任者： 奥富 宏幸  
〒350-1322 埼玉県狭山市下広瀬782-2  
TEL: 04-2952-3332 FAX: 04-2952-3070  
URL: <http://www.okutomi.co.jp>

### 編集後記

コロナで気が滅入る中、医療や介護の現場で命の危険を顧みず懸命に働く人々を見てみると、社会のために役に立つとはどういうことかを考えます。企業体力がない倒産する会社も増えていくでしょう。「会社」というのは、逆さに読めば「社会」。社会にその価値を認められてこそ、会社は行き続けられるのだと思います。